

14 中欧のペスト塔について

石田 純郎

日本には存在しない医療関係の史跡について、ヨーロッパのある地方にだけ、特異的に群がって存在しているものがある。それは例えば、現在のトルコ、ルーマニア地方も含む古代ギリシア文化圏にあるアスクレピオスの神殿、ベルギー・フランス東北部のカトリック系修道院オスピタル、ポルトガルのミゼルコルディア、オランダのライデン・ハールレム両市のホフイエ（小庭系困窮者収容施設）などである。ある地方を旅行している時に、これらの史跡が群がって存在しているのが見えてきて、やがて、その概念がつかめるようになる。書物からだけでは、なかなかその具体像や概念は読取れない。

本年一月にチェコ、オーストリア、スロベニア、クロアチアを訪れた。現在は別の国に属すこれらの地方は、前期近代期には一つの国に属していたことがあった。そ

のため、人種、ことばは異なっても、文化には共通するものが多い。共通の史跡の一つにペスト塔がある。プラハ（二七二三年建立）、チェスキー・クルムロフ（二七二六年）、ウィーン（二六九三年）、リンツ（二七二三年）、グラーツ（二六九三年）、チェリエ（二七七六年）と、訪れた町の四分の三以上に、ペスト塔は立っていた。

チェコではプラハとチェスキー・クルムロフを訪れた。プラハの小地区広場 (Malostranské náměstí) には、一八世紀の始めに建てられた聖ニコラス教会があり、その前にプラハの円柱という柱が立っているが、これは一七二三年に疫病（ペスト）の終焉を祈願して建立された三位一体の円柱である。チェスキー・クルムロフ (Český Krumlov) は世界遺産に指定された人口一万人の地方都市で、蛇行した河岸の丘の上に建つ古城と修道院が美しい。この町の中心の広場にも、マリアン・ペスト塔が立つ。この塔もペスト流行の終焉を祈願して、一七一六年に建立された。チェコではこれ以外に、ブルゼニユ（二六八一年）にもペスト塔がある。チェスケー・ブデイヨヴィツとチェトボルにはペスト塔はなかった。

オーストリアではウィーン、リンツ、グラーツの三都市を訪れたが、いずれの街にもペスト塔は存在した。ウィーン都心のシュテファン広場に近いグララーベンに、一六九三年に完成した三位一体のペスト塔が立つ。ドナウ河畔の人口一九万人のリンツの中央広場にも、三位一体の塔が立つ。トルコによる侵略(一七〇四年)、火災(一七二二年)、ペスト(一七二三年)から逃れられたことを記念して、オーバーエースタライヒ州議会により一七二三年に建立された。グラーツは人口二四万人、中世の面影を残す旧市街は世界遺産に指定されている。都心に近いカルメリータ広場には、ペスト流行の終焉を祈願した三位一体塔(一六八〇年)が立つ。オーストリアではこれ以外に、サンクトペルテン(一七八二年)とバーデン(一七二四年)にも三位一体塔がある。

スロベニアでは、東部のチェリエ(Celje)を訪れた。チェリエは周囲に中世の壁の遺構を一部残した人口四万人のコンパクトな古都である。ここでも町の中心のGlavni trgに、一七十六年に建立されたペスト塔がある。人口に見合って、他の町の塔よりずいぶん小さい。スロ

ベニアではこれ以外に、Skofja Loka(一七五一年)とマリボー(一七四三年)にもペスト塔がある。

クロアチアの首都ザグレブにはペスト塔はなかった。なお、ハンガリーのブダペストにもペスト塔があることが知られている。

口演の際には、ペスト塔の写真を見ていただく予定である。

(公立新見女子短期大学)